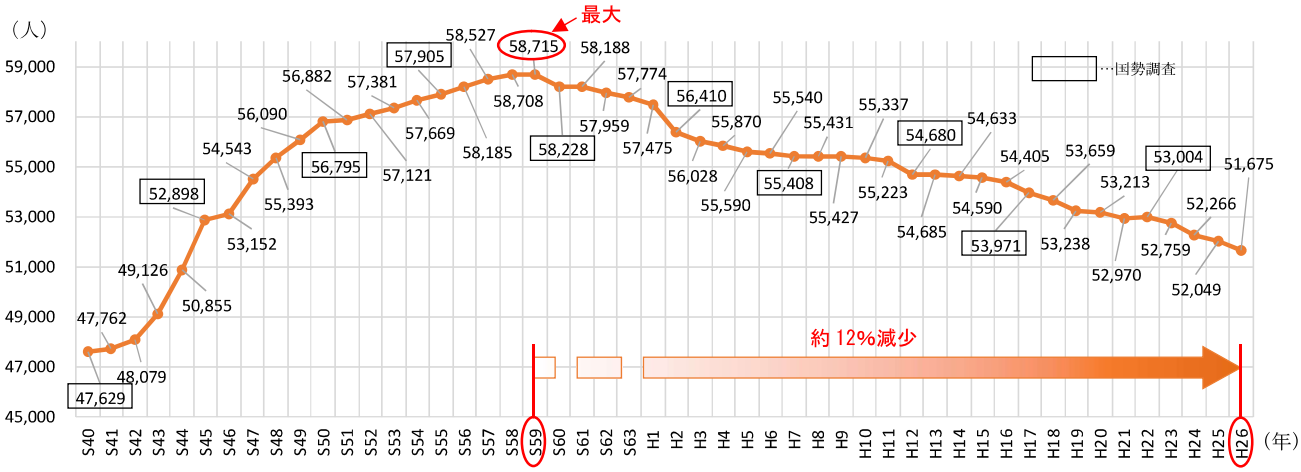
Ⅱ　「今」の姿　－人口の現状と分析－

１　総人口の動き

本市では、第２次ベビーブームや高度経済成長などを背景に、昭和４０～５０年代にかけて出生数や転入者数が大幅に増加し、総人口を急激に押し上げる要因となりました。しかし、その後は、昭和５９年の５８，７１５人をピークに減少傾向となっています。平成２６年の人口は、５１，６７５人で、昭和４４～４５年頃と同じ水準となっています。ピーク時と比べると、３０年間で７，０４０人、率にして約１２％の減少となっています。

■　総人口の動き　■



（出典）国勢調査、人口移動統計調査、山口県「推計人口」

２　年齢ごとの人口の動き

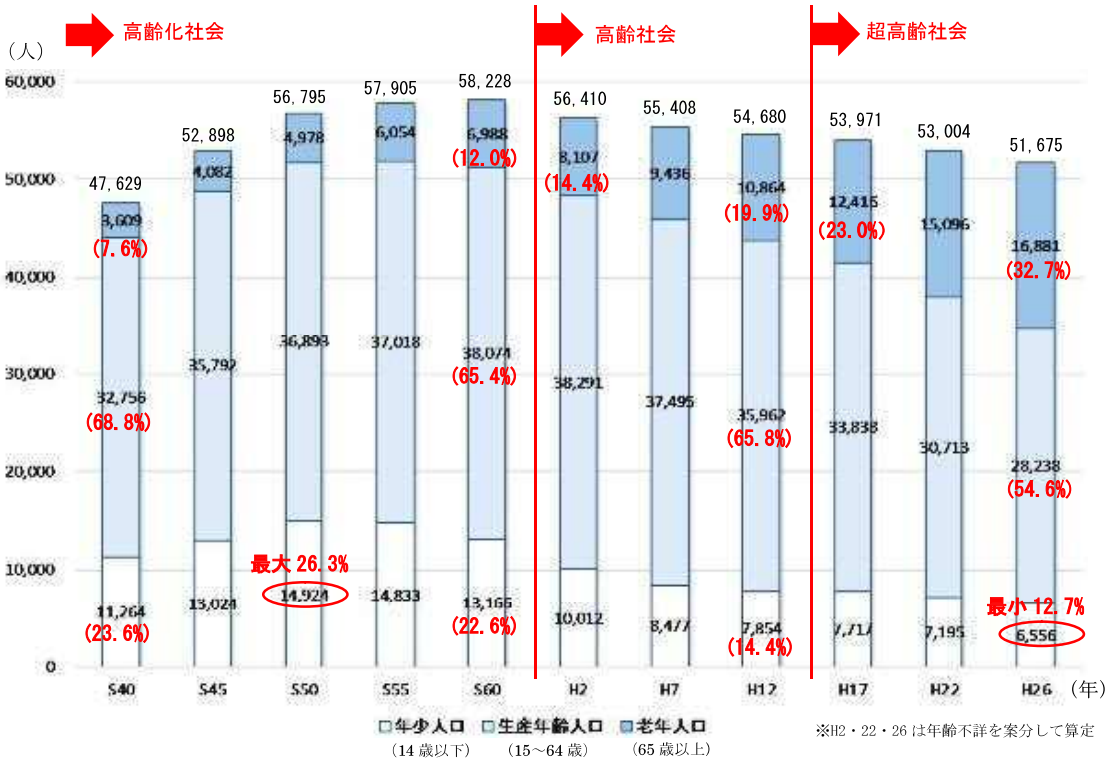
（1）　３区分別の人口の推移

６５歳以上の老年人口は、昭和４０年以降、数、割合とも増加を続けており、平成１７年の国勢調査時には、超高齢社会【説明①】の基準とされる２１．０％を超えました。

一方、１４歳以下の年少人口は、第２次ベビーブームを背景に、昭和４０～５０年にかけて増加したものの、以降、数、割合とも減少を続けており、平成２６年時点では１２．７％となっています。

また、平成２２年には、老年人口が年少人口の２倍を超えました。

■　年齢ごとの人口の状況　■



（出典）国勢調査、山口県「推計人口」（H26）

☞【説明①】超高齢社会

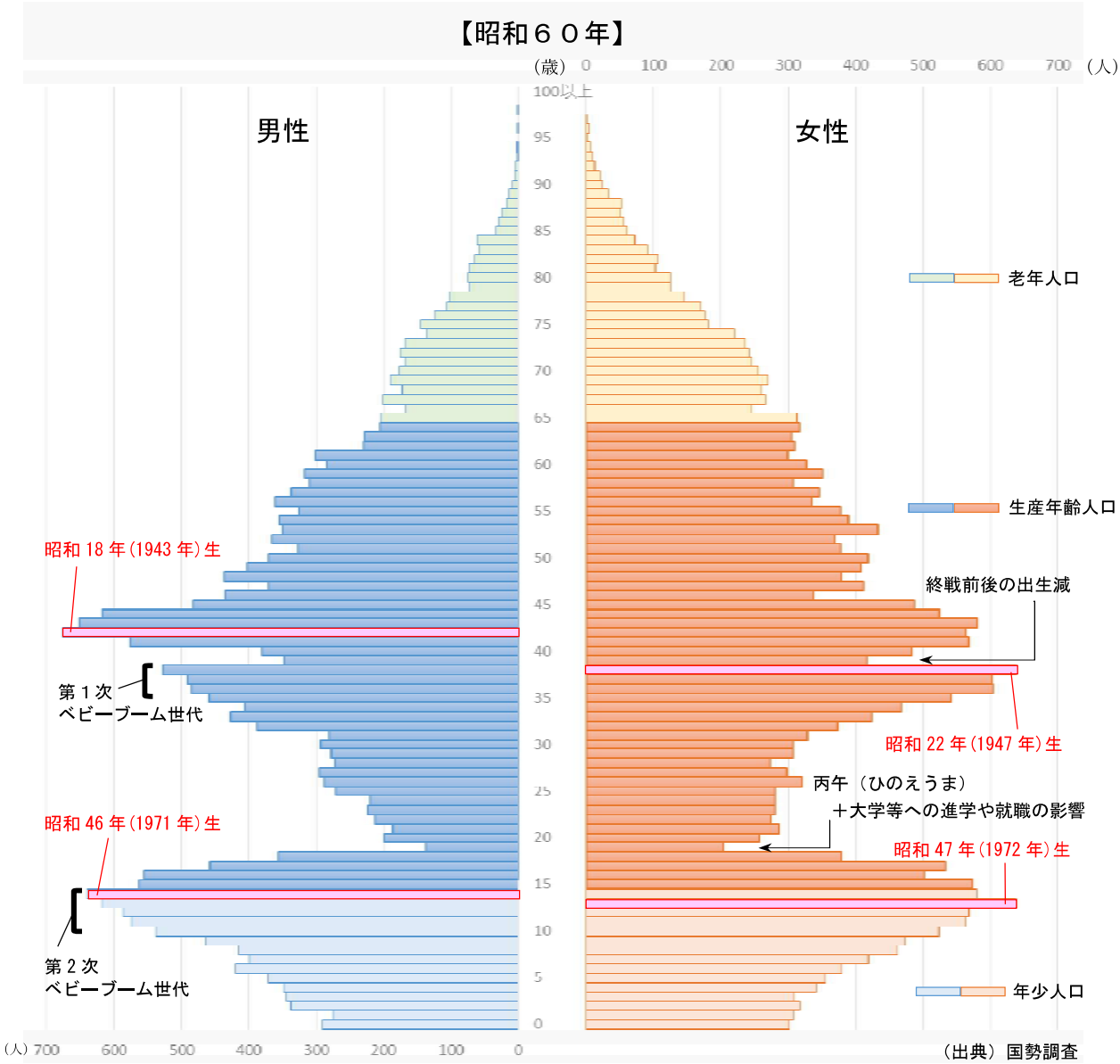
世界保健機関（WHO）の定義によると・・・

- ６５歳以上人口の割合が　７％超で「高齢化社会」
- ６５歳以上人口の割合が１４％超で「高齢社会」
- ６５歳以上人口の割合が２１％超で「超高齢社会」

(2)　１歳ごとの人口ピラミッド

人口ピラミッドは、年齢ごとの人口を男女で左右に分けて、低年齢から高年齢にかけて積み上げた図で、その形によって人口の構成を知ることができます。一番下が０歳で、頂点を１００歳以上としています。社会のあり様によってその形は大きく変ってきます。【説明②】

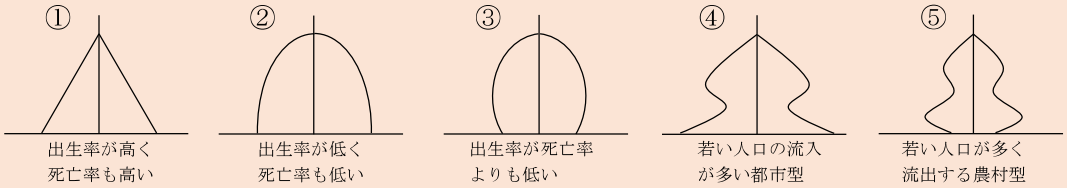
■　１歳ごとの人口ピラミッド　■



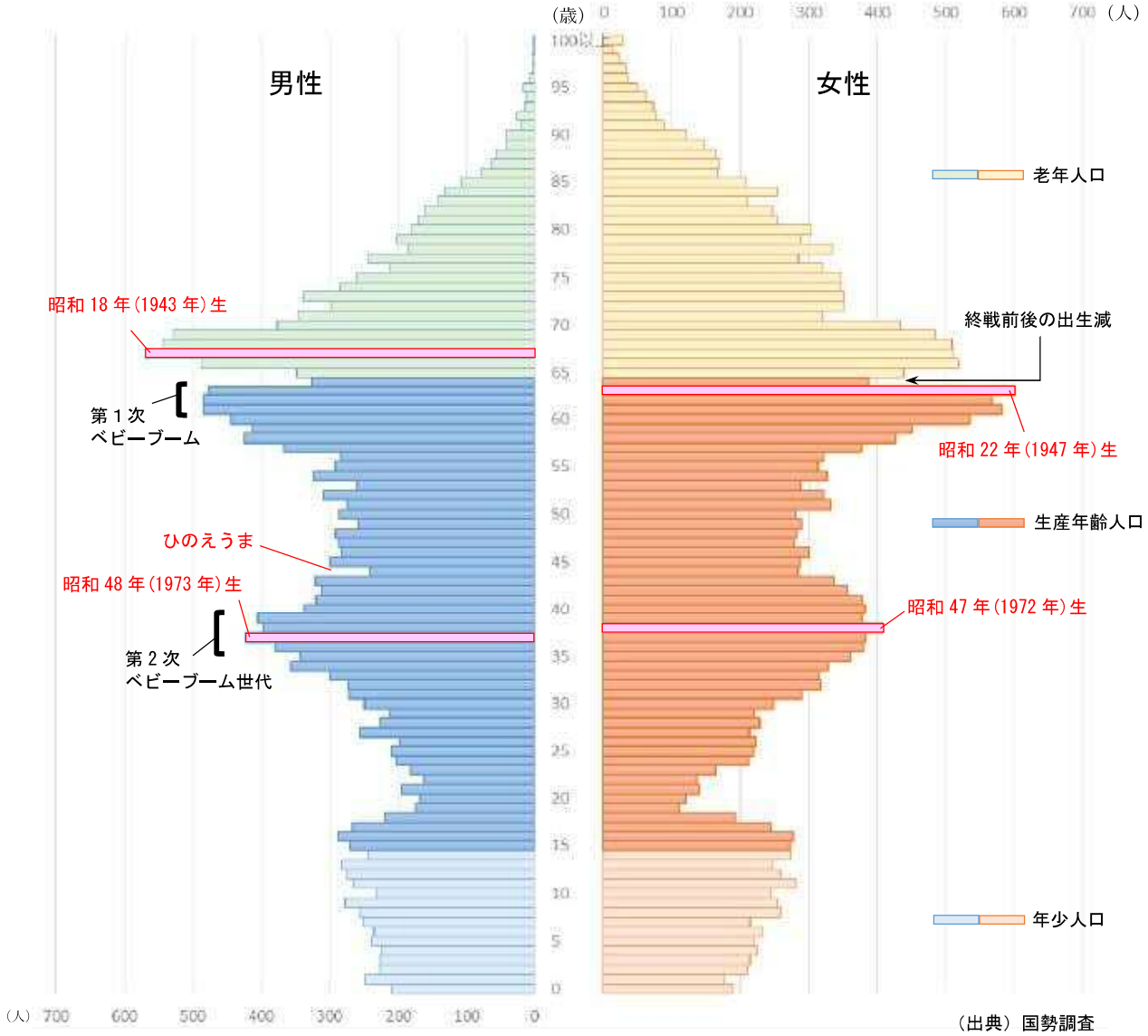
ベビーブームや高度経済成長時期の転入超過を背景に、３０歳代後半から４０歳代前半と１０歳代の２つの大きな膨らみが見られ「ひょうたん型」になっています。一方で、１９歳は、大学等への進学や就職に丙午(ひのえうま)の影響も相まって極端に少ないことが見受けられます。

☞【説明②】人口ピラミッドの形

一般的には、①ピラミッド型 ②釣鐘型 ③つぼ型 ④星型 ⑤ひょうたん型などがあります。さらに⑤の下の膨らみが無くなると「花瓶型」になります



【平成２２年】



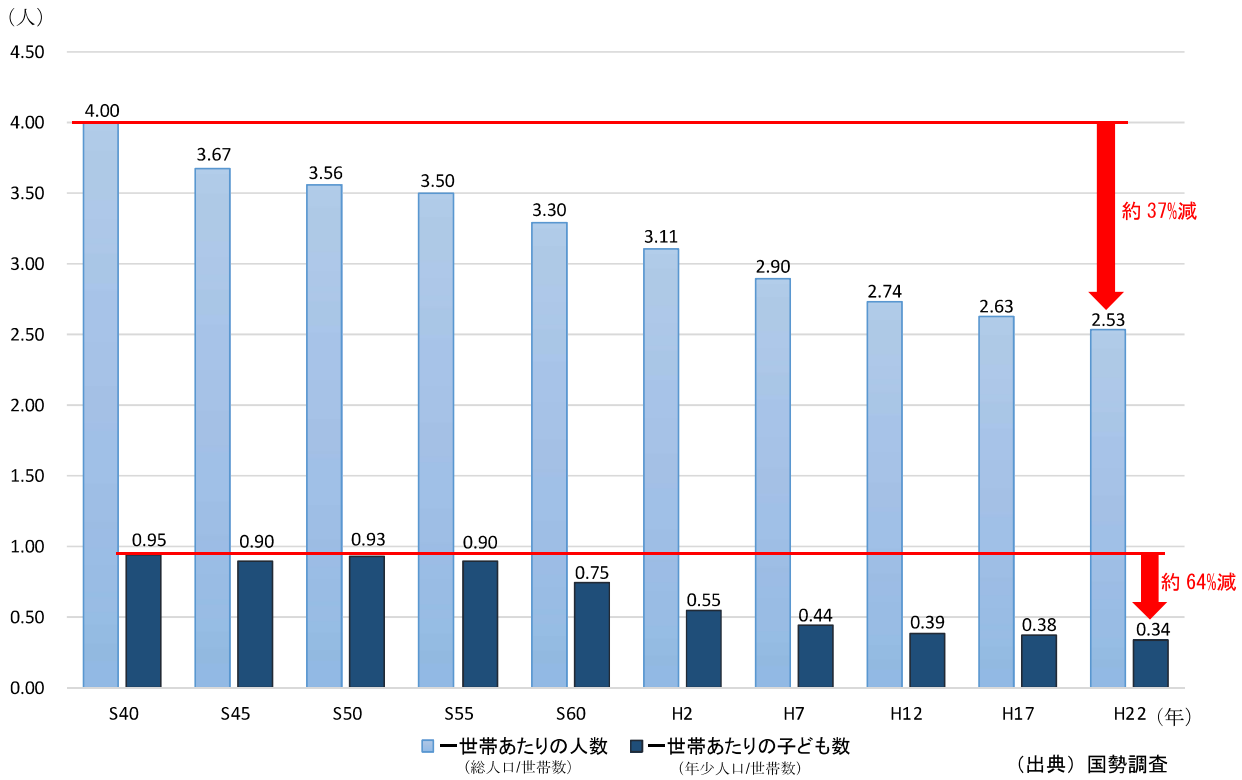
（出典）国勢調査

昭和６０年と比べると、同じ２つの山の膨らみは見られるものの、第２次ベビーブーム世代による２つ目の山（３０歳代後半）が低くなっています。また、２つ目の山の子ども世代による第３次ベビーブームの兆候が見られないことから「花瓶型」になっており、少子高齢化が一段と進行していることが見受けられます。やはり、１９～２２歳は極端に少なく、進学等で市外に出ざるを得ない状況もうかがえます。

(2)　一世帯あたりの人数と子どもの数

一世帯あたりの人数と子ども（年少人口：１４歳以下）の数を見ると、昭和４０年以降両方とも減少傾向にありますが、この間、一世帯あたりの人数は約３７％の減少に対し、一世帯あたりの子どもの数は約６４％の減少と、大きく減少しており、少子化が進んでいることがうかがえます。

■　一世帯あたり人数と一世帯あたり子ども数の推移　■

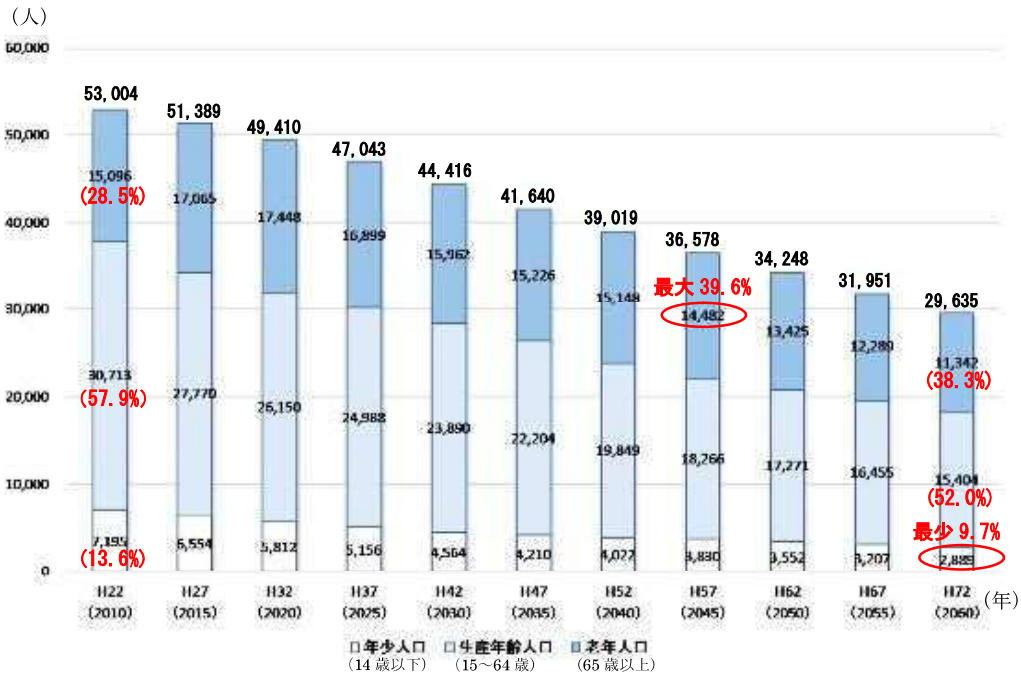


（出典）国勢調査

(2)　３区分別人口の推計

６５歳以上の老年人口割合は、平成５７年（２０４５年）の３９．６％まで上昇を続け、その後緩やかに減少すると予測されています。一方、１４歳以下の年少人口割合は、平成４２年（２０３０年）まで減少した後、横ばい傾向となりますが、平成７２年（２０６０年）には１０％を切ることが予測されています。

■　３区分別人口の推計　■



(3)　人口の減少段階と増減状況の推計

推計①「社人研」によると、本市の人口減少段階【説明⑦】は、平成３２年（２０２０年）までは、老年人口が増加し、生産年齢人口、年少人口が減少する「第１段階」にあたります。それ以降、老年人口が減りはじめる「第２段階」に、平成４７年（２０３５年）以降は、全ての年齢区分で減りはじめる「第３段階」に突入し、自然減による人口減少が加速することが予測されています。

また、平成２２年の総人口を「１００」とした場合の各年の総人口の指数は、平成３２年（２０２０年）は「９３．２」、平成５２年（２０４０年）は「７３．６」、平成７２年（２０６０年）は「５５．９」になると予測されています。

☞【説明⑦】人口減少段階

人口の減少は、以下のＡ～Ｃの３段階を経て進行するとされています。

A　第１段階（若い人が減り、高齢者が増える）

年少人口（１４歳以下）↓　生産年齢人口（１５～６４歳）↓　老年人口（６５歳以上）↑

B　第２段階（高齢者も少しずつ減りはじめる）

年少人口（１４歳以下）↓　生産年齢人口（１５～６４歳）↓　老年人口（６５歳以上）→

C　第３段階（すべての年代で減る）

年少人口（１４歳以下）↓　生産年齢人口（１５～６４歳）↓　老年人口（６５歳以上）↓

■　人口の減少段階と総人口の指数　■

(区分) ＼ (年)		H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
人口	年少人口	7,195	6,554	5,812	5,156	4,564	4,210	4,022	3,830	3,552	3,207	2,889
	生産年齢人口	30,713	27,770	26,150	24,988	23,890	22,204	19,849	18,266	17,271	16,455	15,404
	老年人口	15,096	17,065	17,448	16,899	15,962	15,226	15,148	14,482	13,425	12,289	11,342
	総人口	53,004	51,389	49,410	47,043	44,416	41,640	39,019	36,578	34,248	31,951	29,635
指数	年少人口	100.0	91.1	80.8	71.7	63.4	58.5	55.9	53.2	49.4	44.6	40.2
	生産年齢人口	100.0	90.4	85.1	81.4	77.8	72.3	64.6	59.5	56.2	53.6	50.2
	老年人口	100.0	113.0	115.6	111.9	105.7	100.9	100.3	95.9	88.9	81.4	75.1
	総人口	100.0	97.0	93.2	88.8	83.8	78.6	73.6	69.0	64.6	60.3	55.9
人口減少段階		A →			B →		C →					